

Ai愛労連



愛知県原水爆被災者の会（愛友会）
事務局長 水野秋恵さん

愛知県原水爆被災者の会（愛友会）
事務局長 水野秋恵さん

世界の8割が「核廃絶」の思い

いま、世界では8割が
「非人道的な核兵器は廃絶
しかない」と一致していま

議には全国から1000人
を超える代表が参加し、
被爆70年の今年、NPT
(核不拡散条約)再検討会



原水爆禁止愛知県協議会
横江英樹・事務局長代行

安倍政権に終止符を打つたたかいと
合流し歴史的な世界大会の成功へ

「核兵器全面禁止の署名」

を633万筆届けました。
「核兵器のない世界」の実

現には、戦争法案を強行し
ようとする安倍政権の暴走
に終止符を打つたたかいと
合流・連帯していくことが
重要であり、「原水爆禁止
2015年世界大会」で、
非核平和の日本をめざす運
動の決意を世界に発信しま
す。多くの仲間の参加で、
歴史的な大会を成功させま
しょう。

愛知県労働組合総連合

名古屋市熱田区沢下町9-7
労働会館東館3F
TEL 052-871-5433
FAX 052-871-5618
URL <http://wwwairoren.gr.jp>
2015年8月号 発行人 吉良 多喜夫

原水爆禁止世界大会・長崎

とき 8月7日(金)~9日(日)
ところ 長崎市民会館体育館ほか
(広島大会は4~6日※広島県立総合体育館ほか)
申し込み・問い合わせ
愛知県原水協: 052-932-3219

被爆70年

被爆者の思いは…

戦後70年。広島や長崎で被爆した人たちの平均年齢は80歳を超え、忌まわしい戦争体験や核兵器の恐ろしさを語れる“語り部”も年々減ってきています。愛知県原水爆被災者の会（愛友会）事務局長で自身も被爆者である水野秋恵（ときえ）さんに話を聞きました。

かつて逆立っていました。
避難場所の川では死んだ人がたくさん流れ、真っ赤に焼けたトタンが飛んでく
るなど、とても安全とよべる場所ではなく、その後、物は腐って糸を引くオニギリしかなかったため、農家を生き残っている伯母の家に引き上げました。

父も母も原爆の被害に

5歳の夏、爆心地から1・2km離れた広島の祖母の家で被爆しました。投下された瞬間、たくさんのフレッシュを合わせたような光とともに家は崩れ、母や私、2人の弟など瓦礫の下敷きになりました。兵隊に助けられた弟は頭や顔から血を流し、私も瓦礫から引きずりだされました。右腕に大けがをしました。母は全身ボロボロの布をまとったような姿で髪は天に向

たきになりました。防空壕に寝泊まりし、私たちを探していた父は残留在放射能の影響だと思いますが、1956年に結核であります。母は1967年に亡くなっていますが、一人とも原爆に殺されたと思っていま

す。長い間、「これが私の運命。日本は戦争していたのだから仕方がない」と思っていましたが、学習する中で「原爆投下」の意味を知りました。当時の日本は食べ物もなく、餓死者もおり、陸軍・海軍はほぼ壊滅状態でした。なのになぜヒロシマ・ナガサキに原爆がおされたのか。その後も続いたアメリカとソ連の冷戦の中で、アメリカが政治的・軍事的に有利になるため、そして開発されたばかりの原爆の影響について、調査研究のためにヒロシマ・ナガサキの人々が選ばれたのです。

爆心地から熱線の直射を受けた人は皮膚が焼きつくされ、体内の組織や臓器まで障害を受け、ほとんどの人が即死です。その後、救助活動で入市した人たちも残留放射線で発病しています。



歴史を忘れて暴走 西山進

ヒロシマ・ナガサキ 「被爆70周年記念事業」

原爆犠牲者を偲ぶつどい

◇とき 8月3日(月)13:00~16:00
◇ところ 名古屋市公会堂大ホール
・第一部 慽靈祭
千羽鶴を集めて、献花に使います。
・第二部 文化行事
☆交響曲「炎の歌」より
☆合唱構成「そうれっしゃがやってきた」より
※2015日本のうたごえ祭典のみなさん
◇問合せ 愛知県原水爆被災者の会
電話 052-325-7901

ノーモア・ヒバクシャ愛核訴訟

日時 7月15日(水)10:30~証人尋問
7月16日(木)13:10~
7月17日(金)10:00~
会場 名古屋地方裁判所大法廷
◇問合せ あいち被爆者支援ネットワーク
電話 052-325-7901

憲法9条を守る運動の先頭にたつて

こうむ 愛労連は結成以後
25年を経過した。
日本が戦争する国になる
のか、それとも憲法が生き
る国にするのか、重大な岐路のもとでの大会だ
くらしに目をやれば、雇用は「液状化」し、非正規という状況だ。ブラック企業・プラックバイトなどという言葉が日常化し、労働者は貧困の淵に追い込まれている。まさに憲法の破壊である。戦争法案、脱原発、反貧困の共闘が広がり、いまや「安倍内閣やめろ」の声が一つになりつつある▼

労働組合は平和・民主主義・国民生活が危機にさらされたとき、いつも国民の先頭にたつて奮闘してきた。彼らが職場や地域で先頭にたち、政府の横暴に歯止めをかけてきた▼この間、職場の実態は様変わりした。活動そのものが困難になつていて、しかし労働者一人ひとりは、何も考えていないのだろうか。それはあり得ない。同じ職場で仕事をしている以上、かならず共通する思いがある。職場活動をもう一度構築するため役員の「がんばり」が必要になる。このことを認識し、職場と地域の活動を継承・発展させていく大会になることを願う。(K)

